



教育分野に おける AI マイクロソフト 特別レポート



概要

AI はもはや教育分野における新興技術ではありません。すでに導入され、影響を与えています。世界中の教室で、教育者たちはかつて事務作業に費やしていた時間を、再び教育に充てられるようになっていきます。そして学生たちは、授業の教材とより深く向き合っています。各機関は、学習体験を再構築し、その運営方法を根本的に変革しつつあります。

今この瞬間が、テクノロジーの導入にとどまらず、次世代がどのように学び、働き、AI 主導の世界を生き抜いていくかを形作っているのです。

この変化をより深く理解するため、Microsoft Education は、小学校から大学までを対象に、毎年調査を実施しています。私たちの国際調査の結果、AI の利用が年々拡大していることがわかっています。現在、教育関係者、教育者、学生の 10 人中 9 人が、学校関連の目的で AI を少なくとも 1 回は利用したことがあると答えています。

このレポートでは、最新のグローバル調査の結果を分析し、AI を活用して学習の質向上に取り組んでいる教育機関を紹介するとともに、教育者や管理者がこの重要な局面に対応できる推奨事項を提供します。

“学校はスキルを養う場であると同時に、社会そのものが形成される場でもあります。AI は驚くほど幅広い新しいツールを提供しているため、教育者の取り組みを達成する支援をしてくれます。”

—Mark Sparvell

マイクロソフト、マーケティング エデュケーション部門ディレクター

AI の成功事例

K-12 (初等 / 中等教育) から高等教育までの AI リーダーのグローバル ストーリー

UC Chile (サンティアゴ、チリ)

Universidad Católica de Chile は、学習を支援し、教育体験を大規模に強化するため、194 の人工知能教育用エージェントを展開しました。利用頻度の高い AI エージェントのセッション平均時間は 13 ～ 23 分であることが分かっており、持続的なエンゲージメントを示しています。これはつまり、表面的な照会ではなく、コース内容を深く掘り下げていることを意味しています。

MLC スクール (オーストラリア、シドニー)

K-12 (幼稚園から高等学校) までの生徒を抱えるこの学校では、テクノロジーを単なる付加的なものや孤立した取り組みとして扱うのではなく、AI の機能を日々の学習に組み込んでいます。ある教師は、生徒たちがロミオとジュリエットの分析など、シェイクスピア関連の課題に取り組むのを支援するため、エリザベス朝英語で話す AI エージェント「Friar Lawrence」を開発しました。

Broward County Public Schools (アメリカ合衆国、フロリダ州)

同学区では、20,000 件の Microsoft 365 Copilot ライセンスを展開し、教育者や職員に AI 機能を提供するとともに、生徒が Copilot Chat や Microsoft Copilot Studio を利用できる環境を整えました。教育者たちは、週に 6 ～ 7 時間の時間を確保できるようになったため、この時間を生徒たちへの指導に活用できました。5 年間で 4,000 万 ～ 5,000 万ドルの施設コストの削減が見込まれています。

“私たちはこの局面に立ち向かい、生徒がこれからの時代に備えられるようにしなければなりません。世界の動きから目を背けていると、取り残されてしまいます。”

—Sherri Wilson 氏
Broward County Public Schools、革新的学習部門ディレクター



転換ポイント

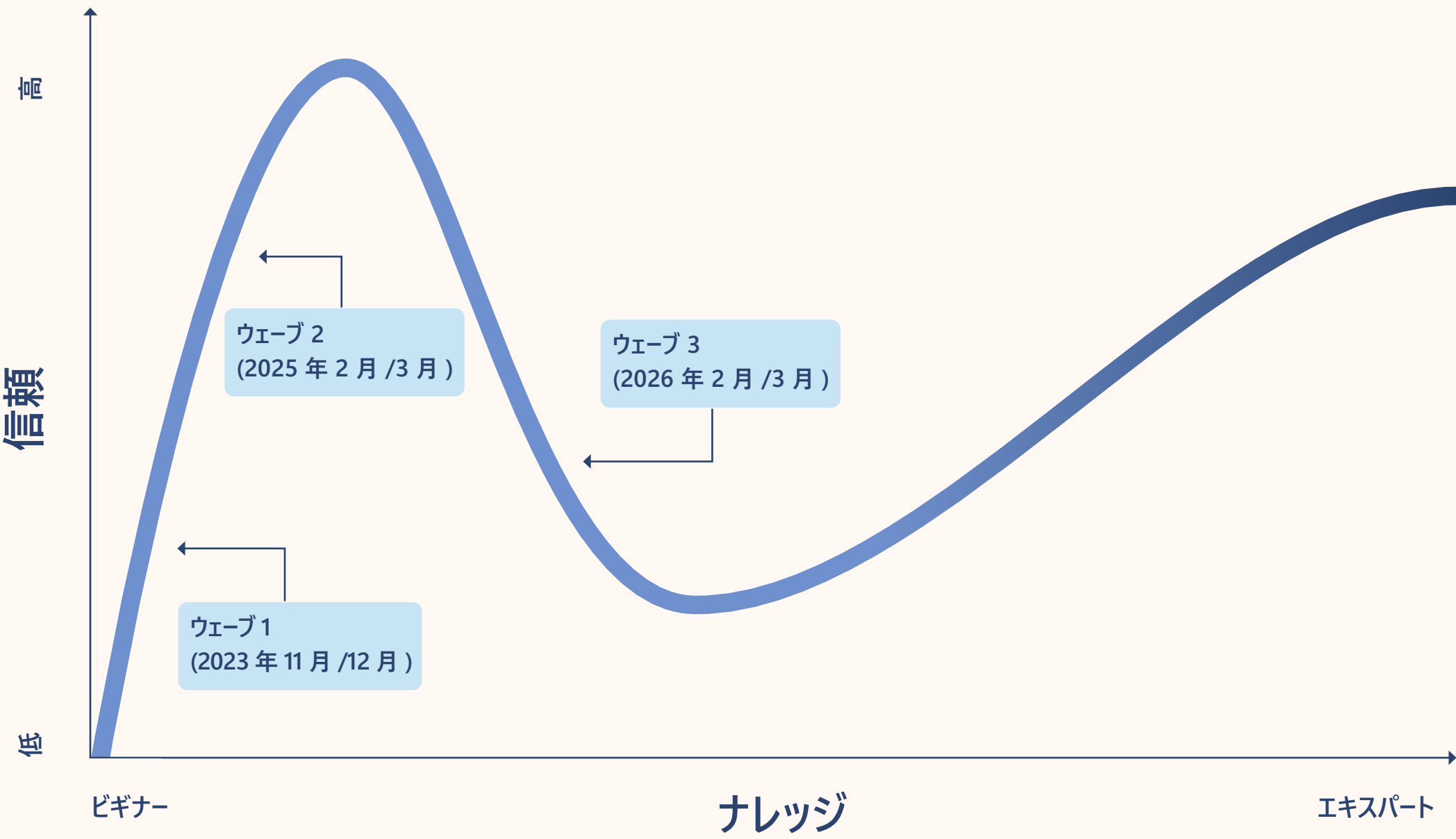
AI の機能は急速に進歩しており、実際に教育の現場では実験段階を脱して、AI を日常業務に組み込み始めています。AI が進化を続け、日常生活の一部となっていくにつれ、その利用に対する当初の熱意や確信は薄れつつあります。

この変化は、教育現場や労働市場における AI 導入の曲線上の自然な転換点を反映している可能性があります。AI への理解が深まるにつれ、人々は AI がどれほど多くのことを実現できるかを実感する一方で、学ぶべきこともまだまだたくさんあることに気づき始めています。これは、新しい技術が登場するたびに繰り返される、よく知られたサイクルです。

ここで明らかなのは、教育機関が勢いを維持するためには、より一貫した支援を提供する必要があるということです。私たちの調査によると、学生や教育関係者の間では AI 研修への要望が高まっており、双方ともこの技術が学生の将来にとって極めて重要であると考えていることがわかっています。職場における AI の導入が加速し続ける限り、教育分野においてもその進展が停滞してはいけません。

信頼が変化するにつれて、AI によるサポートの必要性が高まる

高まる関心と熱意は、より深い理解とサポートの必要性へと変わりつつあります。今はまさに、教育機関が AI に体系的に投資する絶好の機会となっています。教育者の **66%**、学生の **52%** が、所属する教育機関に対し、毎月または四半期ごとに AI 研修を実施してほしいと望んでいることがわかっています。双方の圧倒的多数が、AI リテラシーは学生の将来の成功に不可欠になると述べています。



参照：「2026 年 教育における AI に関するマイクロソフトの調査」
調査委方法についての注：このグラフは、教育関係者、教育者、学生を対象とした 3 年間にわたる調査データに基づき、AI に対する一般的な認識、AI の利用に対する抵抗の有無、教育における AI の役割、自信、AI リテラシーなどの傾向データをまとめたものです。

教育分野における AI のレポート

1. 導入、影響、課題

AI はすでに学校現場で変化をもたらしていますが、教育機関は、この技術を最大限に活用する上で新しい課題にも直面しています。

2. 重要な瞬間を活用する

明確なガイダンス、研修 / トレーニング、そしてリーダーシップがあれば、教育者や学生は、教育と学習を支援する AI の可能性を最大限に引き出せるようになります。

3. 重要性の検証：未来の仕事に向けて 学生を育成する

AI と協働することを学んだ学生は、AI スキルがますます求められる労働市場において、成功への道を切り開くことになります。

1

導入、影響、 課題



導入、影響、課題

現在、教育関係者の 58% が、自校ですでに AI を導入しているか、導入を拡大していると回答しています。私たちがグローバル規模で実施した調査では、学生、教育者、リーダーたちがこれをどのように活用しているか、どこで最も価値を感じているか、そしてどのような課題に直面しているかが明らかになっています。

導入状況： AI の利用は依然として堅調

学生 (92%)、教育関係者 (92%)、教育者 (88%) の圧倒的多数が、学校関連の目的で AI をすでに少なくとも 1、2 回は利用したことがあると答えています。教育機関は今後、より統合的で目的意識の高い実践に対応できる支援体制を構築する必要があります。

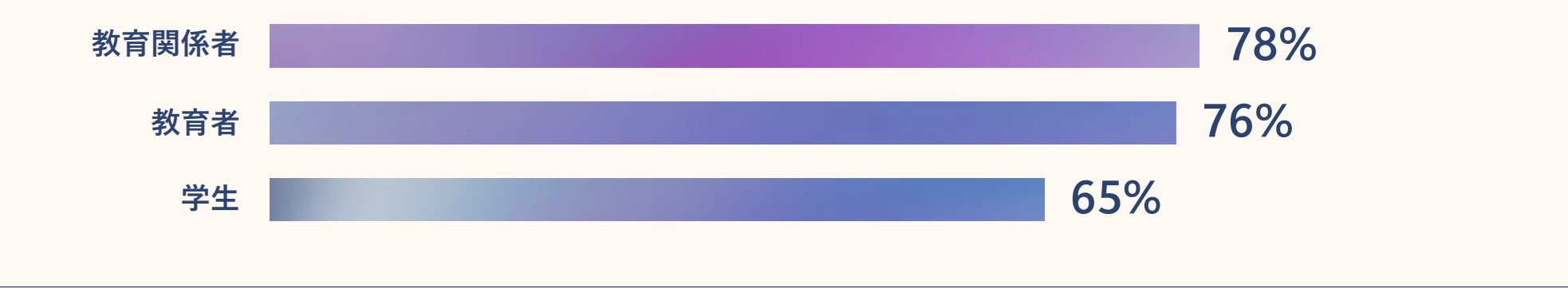
教育関係者も教育者も、「AI についてよく知っている」と答える割合は、昨年と比べてわずかに減少しています。この減少は、知らないことがまだ多く残っていることを認識した傾向を反映していると思われます。

あらゆる層において AI の利用がグローバル規模で高まっています

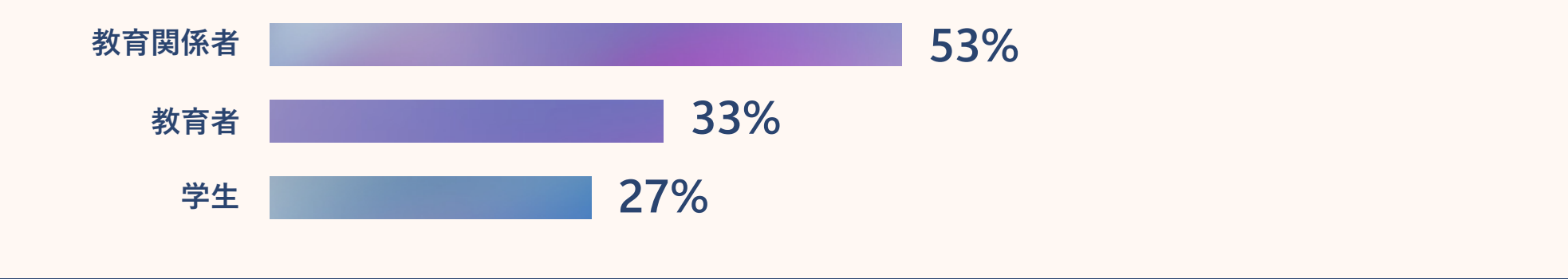
教育関係者たちは、日常的に利用している可能性が最も高くなっています。

AI との関係性

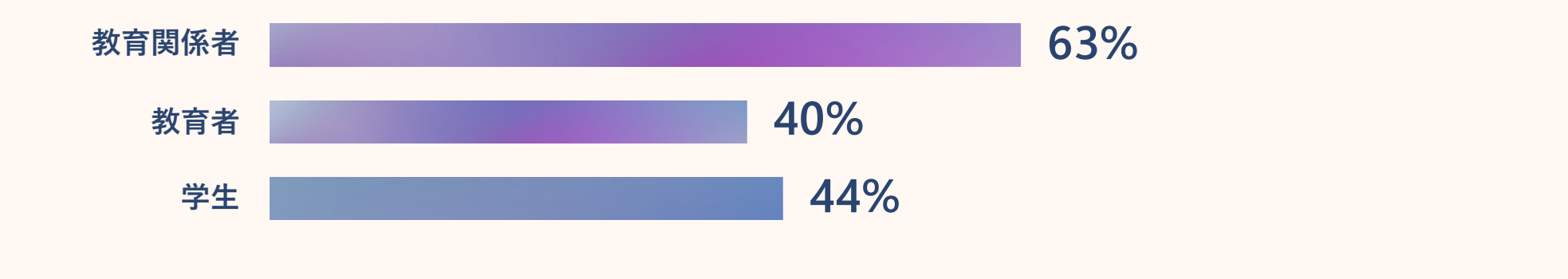
「この 1 年間で、学校関連の目的で AI を利用する機会が増えた」と答えた人の割合



自分の役割や学校関連の目的で毎日利用している人の割合



「AI についてよく知っている」と回答した割合



参照 : 「2026 年 教育における AI に関するマイクロソフトの調査」。対象となった学生は 13 歳以上。「教育関係者」には、学術界や IT 部門のリーダーが含まれています。

影響：学生向け AI

学生たちは、課題に取り掛かる際の支援や、個々のニーズにより合った学習方法を見つけるために、AI を活用するようになってい
ます。調査対象の学生の **58%** が、AI の支援を得ることで、少な
くとも 3 つの使用用途が以前より簡単になったと回答しています。

“AI のおかげで、生徒たちが単に知識を思い出すだけでなく、評価、統
合、そして根拠付けへと各ステップを結び付けられるようになっていま
す。生徒たちは単に答えを求めているだけではありません。大きな変化とし
て、Copilot Chat に対してよりの確な質問をするようになっていたことが
挙げられます。これによって、生徒は情報源を探す時間を減らし、その
意味について考える時間を増やすことができます。そこで、さらに学びを
深めることができるのです。”

—Shane Tooley 氏
St. Peter Claver College、カリキュラム担当副校長
(オーストラリア、クイーンズランド州)

学生による AI の主な用途

学生は情報を理解しやすくするために、サポートを求める傾向があります。

情報の要約をしてもらうため



より早く必要な答えや情報を得るため



課題に取り掛かるきっかけを作り、アイデアを出し合うため



自分に最も合った方法で学習や勉強ができるようにサポートしてもらうため



ライティング スキルを向上させるため



このサンプルは、世界中の K-12 (幼稚園から高等学校) および高等教育機関の学生を対象としています。
アンケートの質問: 学業で AI ツールを使用しているタスクはどれですか?
参照: 「2026 年 教育における AI に関するマイクロソフトの調査」

教育者と教育関係者向け AI

AI は教育現場の主要な業務プロセスの一部となりつつあるため、教育者は AI を主に、授業活動のための新しいアイデアを生み出したり、授業計画の策定を支援したり、複雑なトピックを分かりやすく説明したりするために活用しています。一方、教育関係者たちは、学生の学力向上の機会の特定から業務効率の向上に至るまで、AI がシステムレベルでどのような効果をもたらすかに注目しています。教育者の大半 (**58%**) および教育関係者の大半 (**70%**) は、AI の活用により、少なくとも 3 つの使用用途が以前より容易になったと回答しています。

AI を活用することで、事務作業や計画立案の負担を軽減し、時間を節約できます。「そのおかげで、より手厚い配慮や個別化された学習を必要とする生徒たちに注意を向けることができるようになりました。そして学生にさらに高い課題を課すことができるようになりました。」

—Hermes Abrantes 氏
Nova High School、ブロード郡初の AI アカデミーの責任者 (アメリカ合衆国、フロリダ州)

教育者や教育関係者の間で最も多く利用されている AI の用途

AI は、特に授業計画において、日常の教育実践の一部となりつつあります。また、教育関係者が、学生がさらなる支援を必要としているポイントを把握するのに役立ちます。

教育者

授業計画、補助教材、課題に関する新しいアイデアをブレインストーミングするため



授業計画、補助教材、課題の作成または更新を行う



生徒たちに複雑なテーマをわかりやすく解説するため



より価値のある分野に時間を割けるようにするため



生徒のニーズに応じた指導を行うため



教育関係者

業務と管理プロセスの効率化を図るため



生徒の体験を向上させるため



リアルタイムのパフォーマンスデータと予測分析を活用し、学生の向上につながる機会を特定するため



生徒への支援やコミュニケーションの能力を向上させるため



教育に関する知識やリソースへの公平なアクセスを向上させるため



このサンプルは、世界各国の K-12 および高等教育機関の関係者や教育者を対象としています。
アンケートの質問：業務でどのタスクに AI ツールを使用していますか？
参照：「2026 年 教育における AI に関するマイクロソフトの調査」

AI が教育現場に欠かせない要素となる中、教育関係者、教育者、学生からのアンケート回答からは、主に 3 つの課題が浮かび上がっています。

- **アカデミック インテグリティ**は、教育分野における AI にとって、独特かつますます深刻化しつつある課題です。教育者は盗作や不正行為の増加を懸念している一方で、学生たちはそうした行為で非難されることを恐れています。
- **プライバシー、セキュリティ、データ**は、特に教育者や関係者にとって懸念事項です。どのツールを教室に導入するかを決定するのは彼らであり、学生のデータに関しては、その責任を真摯に受け止めています。
- **AI リテラシー** リテラシーの水準には依然としてばらつきがあり、ほとんどの学生や教育者は、AI に関する正式な研修を受けたことがないと答えています。

“私たちは今、世界的な学びの転換点にいます。
そして、教師が自分たちだけで AI を理解しよう
とする負担を負う必要はありません。”

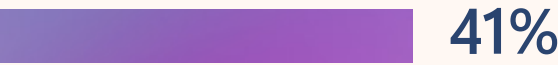
—Pat Yongpradit
マイクロソフト、グローバル教育よ労働力政策部門、ゼネラル マネージャー

教育における懸念

学生、教育者、教育関係者たちは、AI について同様の懸念を表明していますが、その懸念にはそれぞれの立場による違いがあります。学生たちは、AI 生成コンテンツが原因でカンニングの疑いをかけられたり、誤情報を看過してしまったりといった、差し迫った個人的なリスクをより強く懸念しています。教育者や教育関係者は、プライバシーやセキュリティ上の懸念に加え、学生の学習に対するリスクについても強調しています。プライバシーとセキュリティに関する明確な情報発信は、AI システムへの信頼を築く一助となります。その信頼が、教育者や学生に、AI を効果的に活用し、試行錯誤し、探求するためのさらなる自信を与えます。

学生の懸念

盗作や不正行為の疑いをかけられる可能性がある



AI が生成したコンテンツの誤った使用や解釈につながる誤情報



AI ツールに過度に依存する可能性



教育関係者の懸念

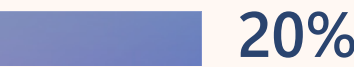
学生と教職員のデータに関するプライバシーとセキュリティの懸念



AI が生成したコンテンツの誤った使用や解釈につながる誤情報

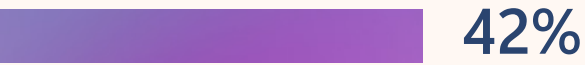


盗作と不正行為の増加



教育者の懸念

盗作と不正行為の増加



学生と教職員のデータに関するプライバシーとセキュリティの懸念



AI ツールに過度に依存する可能性



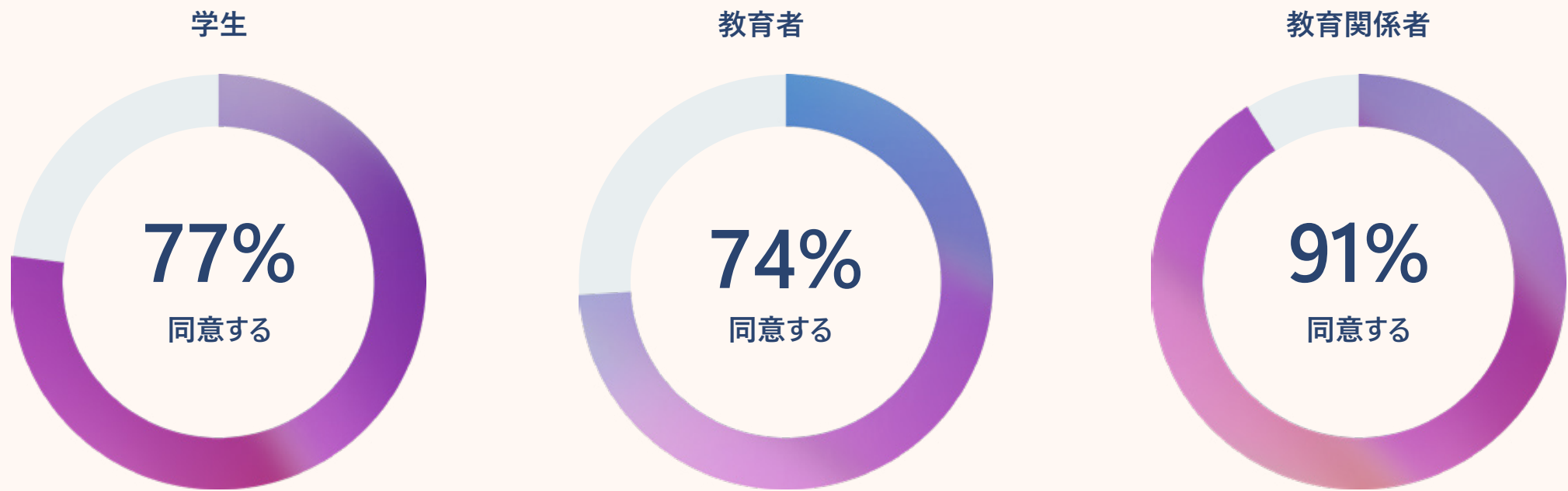
10 代の若者の 91% が、AI がもたらす全般的な影響について、何らかの懸念を抱いています。詳細については、[Global Online Safety Survey 2026](#) をご覧ください。

アンケートの質問：所属する学校 / 学区 / 大学 / カレッジ内、あるいは教育目的での AI の利用について懸念を抱いている理由のうち、上位 3 つを選択してください。
参照：「2026 年 教育における AI に関するマイクロソフトの調査」

信頼性と楽観性

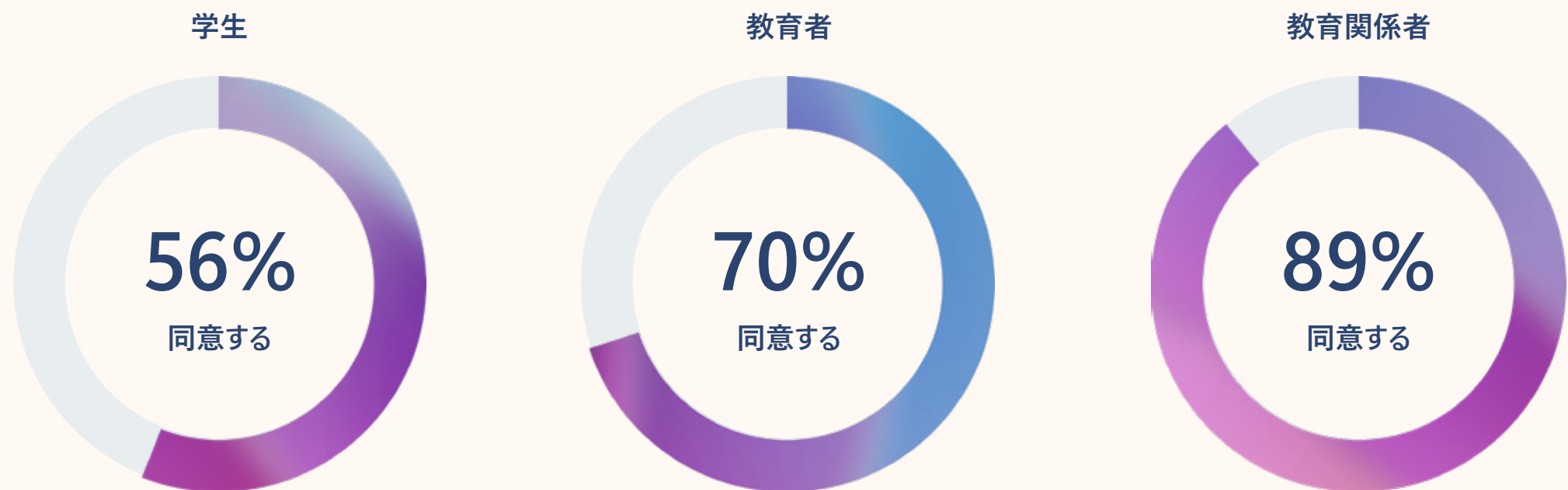
ほとんどの学生、教育者、教育関係者は、自身の AI スキルに自信を持っています。しかしこの1年間で、特に学生の間では、AI に対する楽観的な見方がわずかに後退しています。その理由は、学生たちが、AI テクノロジーの絶え間ない進歩と、雇用市場の先行き不透明さに関するニュースの両方に直面していることに起因する可能性があります。AI の進化のスピードは多くの場合、学校が提供する指導や支援体制の整備のスピードを上回っています。さらに、学生が AI の利用に慣れていくにつれて、AI が抱える課題や未開拓の可能性に対する認識が高まることも考えられます。

「AI を効果的かつ責任を持って活用できる自信がある。」



アンケートの質問：次の文章にどの程度同意しますか？「AI を効果的かつ責任を持って活用できる自信がある。」
参照：「2026 年 教育における AI に関するマイクロソフトの調査」

「人工知能 (AI) は私たちの生活や、私たちが暮らす世界をより良いものにしてくれると、楽観的に考えている。」



アンケートの質問：AI についてご存知のことを踏まえて、以下の記述にどの程度同意するかをお答えください：「人工知能 (AI) は私たちの生活や、私たちが暮らす世界をより良いものにしてくれると、楽観的に考えている。」
参照：「2026 年 教育における AI に関するマイクロソフトの調査」

AI に対して最も楽観的なのはサウジアラビアの回答者で、最も悲観的なのは米国の回答者でした。米国の学生の間では、AI に対する楽観的な見方が昨年より 21 パーセントポイント低下しています。教育関係者については 6 ポイント、教育者については 7 ポイント低下しています。

2

重要な瞬間を 活用する



重要な瞬間を 活用する

AI の展開において最も大きな進展を遂げている組織は、単に技術を展開するだけでなく、その成功に必要な環境を整えています。私たちの調査では、2 つのニーズが特に重要であることが明らかになりました。それは、AI リテラシーへの投資と、この技術をいつ、どのように活用すべきかについての明確な指針です。

学生と教員が必要なこと

AI 活用への投資が増加しているにもかかわらず、多くの学生や教育者は、AI を効果的かつ責任を持って活用するためのさらなるサポートを求めています。生徒や教育関係者に、学校が AI 活用を支援するためにどのような取り組みを強化すべきか尋ねたところ、両者とも「研修の拡充」と「より充実した指導」を望んでいると回答しました。

これらの課題に直面しているのは学校だけではありません。マイクロソフトの [2026 年 Work Trend Index](#) へのリンクが必要トレンド インデックスによると、業界を問わず、各組織は AI の急速な変化に対応するため、研修、業務フロー、サポート体制の調整に取り組む中で、同様の課題に直面していることが示唆されています。

学校はあなたの AI 活用の取り組みをどのように効果的にサポートできるでしょうか？

学生の上位 3 つの回答：

- 1. AI カリキュラムや学習への統合
- 2. 責任ある使用と盗作防止教育
- 3. AI リテラシー トレーニングとワークショップ

教育者の上位 3 つの回答：

- 1. AI リテラシー トレーニングとワークショップ
- 2. 明確なガイドラインと AI ポリシーの策定
- 3. 教育者への支援と専門的能力の開発

アンケートの質問：所属している学校 / 大学 / カレッジは、あなたの AI 学習の取り組みをどのようにサポートできると思いますか？より詳しいガイダンスを得られた場合、最も有益だと思う分野について、お答えください。
参照：参照：「2026 年 教育における AI に関するマイクロソフトの調査」

AI サポートのギャップを特定する

学生や教育者は、教育機関による AI サポートについて、「教育関係者」とは異なる認識を持っている傾向があります。また、多くの人々がさらなる学習機会を求めています。**教育者の 66%、学生の 52%**が、所属する教育機関に毎月または四半期ごとに AI 研修を提供してほしいと回答しています。

“教育関係者はコンテンツを提供していると主張していますが、対象者側はそれを受けていないと回答しています。これは詳しく調べてみる価値があります。AI の進化は極めて速いため、学んだことを実務に定着させる間もなく、また新しい変化が訪れてしまう可能性があるため、結果的に常に知識が追いついていないと感じてしまうのです。”

—Mark Sparvell
マイクロソフト、マーケティング エデュケーション部門ディレクター

ガイダンスのギャップ

教育関係者らは、自校では AI に関する明確なガイダンスを提供していると回答しています ...



教育関係者の **5 分の 4** が、自校の AI に関するガイダンスは明確であると評価しています。

... しかし、生徒や教師はあまり納得していません。

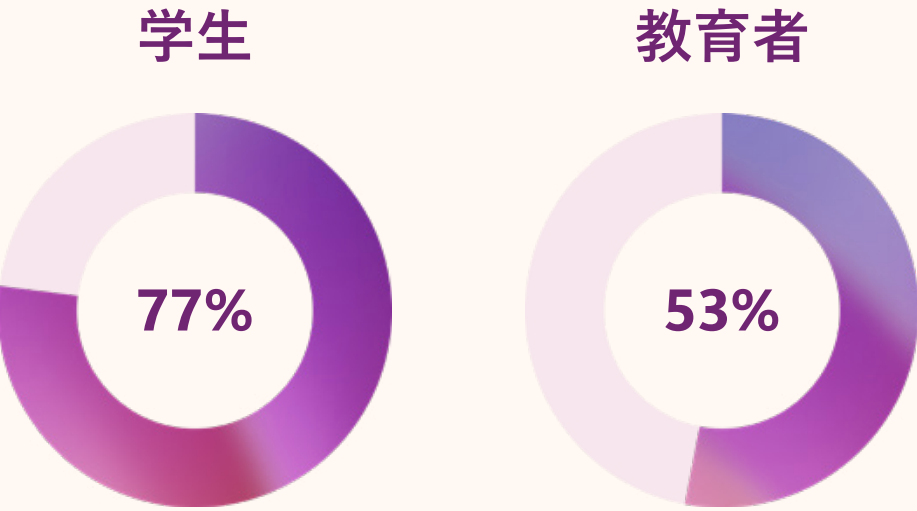


生徒と教師の半数が、所属する教育機関からのガイダンスについて「中立的」であるか、あるいは「提供されていない」と回答しています。

研修のギャップ

学生や教育者の大半は、正式な研修を受けたことがないと回答しています。

しかし、教育関係者はこの状況に対し、異なる見方をしているようです。教育関係者の **10 人中 7 人**が、所属する学校や大学の利用者の少なくとも半数が AI の研修を受けたことがあると答えています。



学生の 77%、教育者の 53%が、AI に関する研修を受けたことがないと答えています。

アンケートの質問：あなたの学校や学区は、教育用 AI ツールの活用について、教員や生徒に対してどの程度のガイダンスを提供していますか？ (1 ～ 5 の 5 段階評価で、1 は公式なガイダンスがないことを示し、5 は明確なガイダンスがあることを示します)。教育者と学生向け：学校 / 学区 / 大学 / カレッジから AI 研修を受けたことがありますか？教育関係者向け：学校 / 学区 / 大学 / カレッジの AI ユーザー（教育者、スタッフ、学生を含む）のうち、AI 研修を受けた割合はどれくらいですか？
出典：「2026 年 教育における AI に関するマイクロソフトの調査」

優先度：AI リテラシー、自信、能力の育成

欧州委員会と OECD が策定した「AI リテラシー フレームワーク」によると、AI リテラシーとは、「AI の影響を受ける世界で活躍するために必要な技術的知識、持続可能なスキル、そして未来を見据えた姿勢」を持つことを意味します。これにより、「学習者は AI と関わり、AI を活用して創作し、管理し、形作ると同時に、その利点、リスク、および倫理的意味合いを批判的に評価することができるようになります」。AI リテラシーとは、単にツールの使い方を学ぶことではありません。批判的思考力、コミュニケーション能力、そして判断力も含まれています。

AI が主導する世界において、こうした能力の重要性はますます高まっているものの、調査対象となった教育者の半数未満しか、AI リテラシーを「すべての生徒にとって基礎教育に不可欠な要素」とは考えていないことがわかりました。多くの教育者は、AI リテラシーを、小学生の頃から生徒が身につけていくより広範

なメタ認知能力やコミュニケーション能力ではなく、依然として技術的な習熟度やプロンプト エンジニアリングと結びつけて考えているのかもしれませんが。これにより、教育関係者は、教育者の AI リテラシーに対する理解を、こうしたより広範な人間的スキルを包含する形で拡大、深化させる機会を得ることになります。

AI ツールが急速に進化する中、教育機関は、一度限りの AI 研修にとどまらず、教育者や学生が実践的な日常的な活用を通じて自信を身につけられるよう支援することに重点を置く必要があるかもしれません。多くの場合、それは形式的な AI 教育の形にはならない場合もあります。たとえば、教育者たちが協力して AI を活用し、熱帯雨林に関する魅力的な授業案を考案し、生徒たちが AI の助けを借りて、生物多様性に関する難解な科学研究を掘り下げ、理解していくというケースも考えることができるでしょう。



優先度：明確で実践的なガイダンス（特にアカデミック インテグリティに対して）

学生も教育者も、AI の利用におけるアカデミック インテグリティについて、所属する教育機関からの指針を求めています。効果的なガイダンスがあることで、何が許可され、何が望ましくなく、何が禁止されているかといった期待事項が明確になります。AI は、学生の代わりに作業を行うのではなく、ブレインストーミングやアイデアの整理、選択肢の検討を支援する「思考のパートナー」として位置付けるべきです。マイクロソフトの Sparvell 氏の言葉を借りるなら、「答えを出すエンジン」ではなく、ガイドであるべきです。

最も効果的な AI のガイダンスは、単なるトップダウン式のポリシー文書ではありません。教育関係者、学内の指導者、そして技術チームが一体となってガイドラインの策定に取り組むことで、教育機関における導入がさらに促進されるでしょう。

学生でもこの取り組みに参加できます。ハワイにある K-12 の学校、ミッド パシフィック インスティテュートでは、高校生たちが、AI

を適切かつ倫理的、そして責任ある AI を活用するためのポリシーの策定と改訂に取り組んでいます。教育者たちは、学習における AI のロールをめぐる諸問題について、生徒たちとオープンな対話を促そうとしています。

生徒がポリシーの策定に直接関与していない場合でも、授業内でのオープンな対話は重要です。

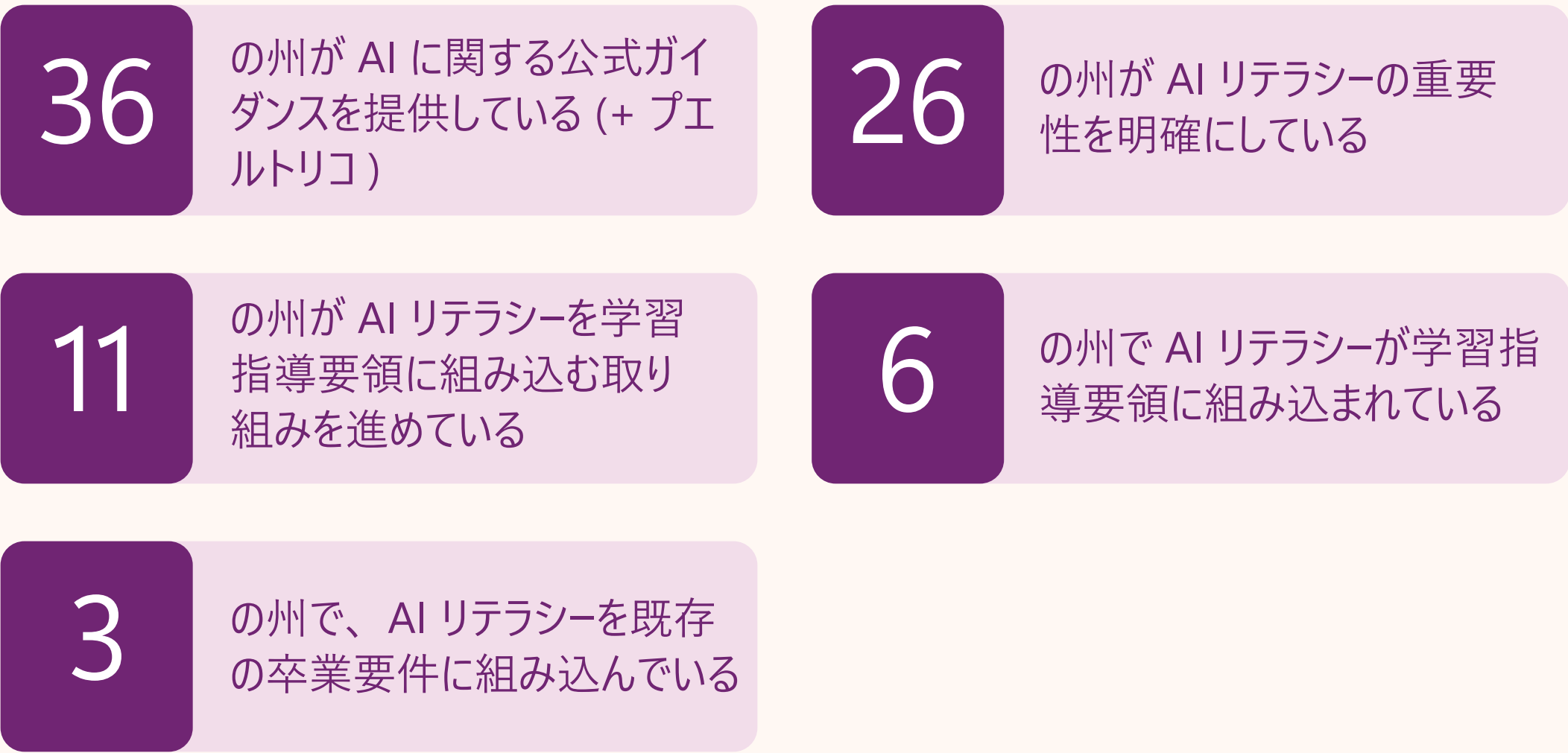
TeachAI では、AI に関するガイダンスを策定する K-12 の学校管理者や教育関係者向けに、ツールキットを提供しています。



スポットライト：米国各州の学校における AI に関するポリシー

全米各地で、学校における AI ポリシーをめぐる機運が高まっていますが、その実施状況にはばらつきが見られます。米国の州の 3 分の 2 以上と 1 つの準州が、学校向けの AI に関する公式ガイダンスを公表しており、これは臨時的な導入から体系的な管理へと、大きな転換が図られていることを示しています。しかし、多くの州が AI リテラシーを優先課題として認識している一方で、それを学習指導要領に組み込んだり、卒業要件にしたりしている州はほとんどありません。州からの正式なガイダンスがない場合でも、各機関は自らのベスト プラクティスを継続的に発展させていく必要があります。

AI に関する州のガイダンス



University of Kentucky (アメリカ合衆国、ケンタッキー州)

University of Kentucky では、アクセス、責任、そしてキャンパス全体での共同学習を重視する、慎重かつ人を中心に据えたアプローチを採用しています。Commonwealth AI Transdisciplinary Strategy (CATS AI) は、責任ある AI の導入に向けた基盤を提供することを目的としたガバナンス フレームワークです。この取り組みの一環として、同大学は 7 万人以上の学生と教職員に Microsoft 365 Copilot へのアクセスを提供しました。現在、学生や職員はソリューションを構築し、互いに共有し合いながら、新しい AI 戦略を学んでいます。

3

重要性の検証： 未来の仕事に向けて 学生を育成する



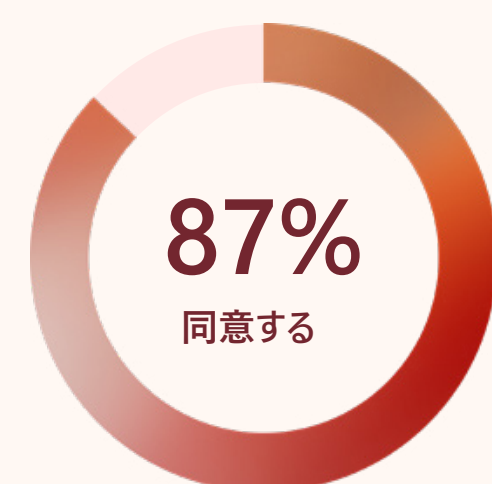
重要性の検証： 未来の仕事に向けて 学生を育成する

学生たちは、教育機関がこの状況に適切に対応することを求めています。AI を効果的に活用する方法を学ばなければ、職場で求められる不可欠なスキルを身につけられないことになるでしょう。この取り組みを主導する教育機関は、課題を特定し、明確な期待値を示して、学生が AI を適切に活用するためのスキルと判断力を育成しています。

AI スキルはすでに仕事の要件となっている

AI はキャリアを成功させるための鍵となりますが、労働市場は教育機関が追いつくのを待ってはくれません。LinkedIn の調査によると、2015 年から 2030 年にかけて、AI をきっかけとして、ほとんどの職種で求められるスキルの約 **70%** が変化すると見込まれています。さらに、2025 年の調査によると、AI リテラシーを要件として挙げる求人の割合は、わずか 1 年で 6 倍に増加していたことがわかっています。

“AI を効果的かつ責任を持って活用する方法を身につけることは、学生の将来にとってきわめて重要です。”



教育者と教育関係者



学生

アンケートの質問：次の文章にどの程度同意しますか？ AI を効果的かつ責任を持って活用する方法を知ることは、私の将来、そして学生の将来にとって重要である。

参照：「2026 年 教育における AI に関するマイクロソフトの調査」



新しいタイプのエントリーレベルの職種

かつてエントリーレベルの役割は、その業界の基礎を学ぶためのものでした。AI が事務作業の多くを担うようになることで、社会に出る学生たちには、かつての新人社員よりも高いレベルの業務遂行能力が求められるようになるでしょう。

実際に、成果を上げている社員にとっては、これはどのような形になるのでしょうか？「エージェント ボス」とは、AI エージェントを構築し、業務を委任し、管理する方法を熟知して、これらを直属の部下のように扱う人物を指します。学生は社会に出る前に、AI を責任を持って効果的に管理し、AI の出力を批判的に評価し、その結果に対して主体的に責任を負うことができるスキルを身につける必要があります。

Microsoft 365 Copilot Chat の利用のほぼ半数 (49%) は、分析、推論、意思決定を支援する用途であり、かつて高度な専門知識を必要としていた高付加価値の業務です。[詳しくは、「2026 Work Trend Index」をご覧ください。](#)

“こうした学生が就職する、あるいは自ら立ち上げる企業には、従来型の仕事にむけて訓練された新入社員は必要ないでしょう。現在の中堅エキスパートと同等の能力を発揮できるエキスパートが必要となるはずです。つまり、従業員とエージェントの両方の管理、作業の評価、フィードバックの提供、人的能力とデジタル能力の使い分けの判断ができる人材が求められています。”

—Jared Spataro、Microsoft、AI at Work 部門 CMO

AI と協働することの意味

AI は、職場における従業員一人ひとりの能力を拡大できるようになっていますが、人間の持つ他のスキルがますます重視されるようになっていきます。マイクロソフトが「[2026 Work Trend Index](#)」の調査で AI ユーザーを対象にアンケートを実施したところ、回答者からは今後不可欠なスキルとして、AI の出力の品質管理 (**50%**) と批判的思考 (**46%**) が浮上していると指摘されています。このことから、学生は情報を客観的に分析し、理にかなった判断を下す方法を学ぶ必要があるということが読み取れます。

批判的思考は、そもそも学生や教育者が AI とどのように向き合うかという点において、極めて重要な要素です。AI は中立で常に正しい「真実の源」ではありません。AI が生成する回答は、評価、検証、文脈に照らして判断する必要があります。AI をどのように活用すべきかを判断する能力は、身につける価値のあるスキルです。



未来の仕事のあり方がここに

AI はすでにあらゆる分野で変革を牽引しています。次の 3 つの業界による事例では、AI によるイノベーションの活用事例、そして学生たちが社会に出た際に直面する仕事の内容を示しています。

Cybersecurity: アナリストとして活躍する学生

全米全土で、学生が運営するセキュリティオペレーション センター (SOC) が職業訓練環境として機能しています。Auburn University では、学生たちが実際のインシデントの初期対応を行い、不審な活動を調査して、脆弱性の発見を支援しており、深刻なケースについては専任スタッフにエスカレーションしています。

公共機関：洪水予測

Jakarta’s Smart City program では、降雨センサー、河川水位計、気象サービスのデータを統合し、洪水リスクを予測するプラットフォームを構築しています。当局はその時間の余裕を利用して、洪水ゲートを閉じ、ポンプを作動させ、専用アプリを通じて住民に警報を送信します。このシステムは、事後対応的な危機対応からプロアクティブな準備への移行を体現しています。

リサーチ：新しい素材の発見

特定の機械的、電氣的、または磁気的特性を持つ材料を見つけるには、従来、何百万もの候補をスクリーニングする必要がありました。MatterGen は、60 万を超える分子構造でトレーニングされており、研究者が定めた基準を満たす材料の候補を生成します。MatterSim と連携して動作しており、提案された材料がさまざまな温度や圧力下でどのように振る舞うかをシミュレートします。

400,000 以上

米国における未充足のサイバーセキュリティ職の数 — AI を活用したセキュリティ運用がこの人材不足を緩和

最大 6 時間

ジャカルタの AI 洪水システムが当局に与える事前警告の災害発生までの時間

28 日

AI を活用してワシントン大学の研究者がコンクリートの新配合を開発するのにかった時間 (以前は 5 年かかっていたプロセス)

5 つの新しい基本原則

9 つの業界のエキスパートが、それぞれの分野に進もうとする学生に、AI 対応能力として実際に何が求められるかについて、それぞれのインサイトを共有しました。すべての業界で共通して見られた期待は、以下の通りです：

詳細を掘り下げましょう。マイクロソフトの「**未来の仕事に向けて学生を育成する AI 時代におけるスキルと産業の進化に関するガイド**」では、さまざまな分野における AI 導入への準備状況がどのようなものかを検証するとともに、各分野の教育者が学生を準備させるために今何ができるかを考察しています。[詳細をご確認ください](#)（注：ここにはリンクが掲載される予定です。これは教育関連の eBook ですが、まだ公開されていません）。

- 1 **エントリー レベルの期待値の高まり**：新卒者は、入社初日から業務フローを管理し、AI の出力を評価することが求められています。
- 2 **パートナーとしての AI との協働**：学生は、AI をどのように指示し、AI が生み出した成果を評価し、改善する方法を理解する必要があります。
- 3 **コンテキスト エンジニアリング**：学生は、AI を最大限に活用するために、データやプロンプト、制約条件をどのように準備すべきかを知っている必要があります。
- 4 **判断、声、人間としての基準**：AI が生成したコンテンツがあふれる世界では、見識と独自の視点こそが、プロフェッショナルとしての質をますます決定づけることになります。
- 5 **資格から能力へ**：雇用主は、学生がどこで何を学んだかだけでなく、スキルを重視して採用しています。

成功事例

未来の仕事に向けて学生を育成する

Indiana University Kelley School of Business (アメリカ合衆国、インディアナ州)

インディアナ大学ケリー ビジネススクールの学生は、Copilot を単に授業の課題だけでなく、共同作業ツールとしても活用しており、AI を駆使したキャリアに備えています。ビジネス関連の授業に Copilot を取り入れ、対象を絞ったトレーニングを提供することで、学生が実践的な AI スキルを身につけ、就職に向けた準備が整っていることをアピールできるよう支援しています。

University of South Carolina (アメリカ合衆国、サウス カロライナ州)

サウスカロライナ大学の学生は、授業や業務ツールとして Copilot の使い方を学び、AI が活用される職場での活躍に備えています。USC では、AI 認定プログラムを新設することで、学生が労働力として準備ができていることをアピールできるよう支援しています。

UC San Diego (アメリカ合衆国、カリフォルニア州)

University of California サンディエゴ校のコンピュータサイエンス学科では、一部の授業に AI コーディング アシスタントの導入を開始しており、学生の 59% が、GitHub Copilot がプログラミングの概念を学ぶ上で積極的に役立ったと回答しています。

学校や大学における [AI の成功事例はこちらをご覧ください](#)



推奨事項： 教育関係者が取り組むべきアクション

- **AI への投資を、所属する教育機関のより広範な戦略に合わせる。**たとえば、起業家教育に焦点を当てた教育プログラムでは、AI を活用することで学生がアイデアを形にし、市場に投入するプロセスを支援できます。AI は、単なる技術的な優先事項としてだけでなく、組織の目標達成に貢献する投資として位置付けるべきです。
- **経営層からの賛同を得ることで単なるテクノロジーへの投資以上の意味を生み出します。**最も成功している学校では、意思決定者は単に支援的なだけでなく、AI を積極的に活用できる有能なユーザーでもあります。
- **監督委員会を設置して戦略と適切な利用方法を策定します。**教育機関においては、管理者、研究者、さらには高校生以上の学生をメンバーとして、AI タスクフォースを編成することもできます。
- **研修を提供します。**この対象者には教員や管理者も含まれます。AI による支援は、実用的で、教科ごとに特化しており、学年に合わせて調整されたものである必要があります。
- **ガイダンスや期待事項を伝えましょう。**教育者と学生には、AI を責任を持って活用すべきタイミングや方法について、実践的な指針が必要です。明確なポリシー、具体例、そして継続的な対話を通じて、自信を築き、不確実性を和らげることができます。



推奨事項： 教育者が生徒の AI 活用を 支援する方法

- 生徒に、**AI とチームの一員としてどのように協働できるかを教えます**。この真のメリットは、AI と人間をいつ使い分けるべきか、そして操作や誤りをどのように見抜く方法を知ることにあります。
- **AI に関する課題を、新しいスキルを身につける機会として捉えましょう**。たとえば、生徒が AI を使って筆記試験で不正をするのではないかと懸念する一部の教師は、筆記試験から口頭発表へと切り替えています。学生のコミュニケーション能力を引き続き育成していくことも、引き続き重要です。AI が生成したコンテンツが普及する中、学生たちは自分だけの、人間ならではの表現を見出していく必要があります。

... そして、AI を活用して指導スキルを向上させる方法

- **AI を活用して、レポート作成や授業の準備などの業務を支援しましょう**。そして、この時間を意図的に、個別対応などの、より価値の高い学生との交流に再投資しましょう。
- **学生がすでに取り組んでいる学習の流れに、AI リテラシーを取り入れましょう**。AI を単なる付加的な機能として扱うのではなく、既存のプロジェクトに組み込むことで、生徒たちは AI を活用して自信の作業をさらに深める方法を身に着けることができます。
- **学習の核心となる原則を常に指針として掲げましょう**。研究に裏打ちされた教育原則、「充実したフィードバック、体験型プロジェクト、社会学習」に基づいて授業を設計し、AI によってこれらの体験を置き換えるのではなく、さらに広げ、強化できる体制を作ります。

今後の展望

現在、教育機関全体で AI の利用が進んでいます。しかし、データは組織的な取り組みと実際の体験との間に明らかな隔たりがあることも示しています。多くの教育関係者がガイダンスや研修を行っている一方で、生徒や教育者は依然として準備が不十分だと感じる人が多いのが現状です。課題の一つは、AI ツールが急速に進化しているため、自信が揺らぎ始め、常に追いつこうと必死になっている感覚に陥ってしまうことです。

このギャップを埋めるためには、まず AI リテラシーへの投資を行い、教育者が AI を日々の教育と学習に組み込めるよう支援することがスタート地点となります。ここでは、AI をいつ使用すべきか、また使用すべきでないかについて明確なガイダンスを示し、組織全体のステークホルダーを巻き込んで、ポリシーとガードレールを共に策定する必要があります。

K-12 から大学まで、学生や教育関係者はすでに AI を活用しています。進展を見せている教育機関は、AI を単に習得すべきツールとしてではなく、AI がますます普及する世界において、学習と人間の判断力を強化するより広範な取り組みの一環として捉えています。

こちらでは、AI を活用した教育、学習、リーダーシップを支援するマイクロソフトのイノベーションやプログラムをご案内しています



参考情報

2026 年 教育における AI に関するマイクロソフトの調査

この調査は、PSB Insights 社が、米国、英国、オーストラリア、ブラジル、日本、サウジアラビアの幼稚園から高校 (K-12) および高等教育機関に在籍する 3,345 人の回答者を対象に実施したものです。参加者は、教育関係者、教育分野のリーダー (IT および学術分野の両方)、および 13 歳以上の学生が含まれます。このオンラインによる定量調査は、2 月 13 日から 3 月 9 日にかけて実施されました。グローバル データは、世界銀行の教育支出推計値に基づいて加重処理されています。
[詳細な調査データはこちらをご参照ください。](#)

ケーススタディ

- [“UC Chile scales responsible AI with Azure OpenAI for more than 4,600 students”](#) (2026 年 2 月 11 日)
- [“MLC School becomes first Australian school to deploy Security Copilot”](#) (2026 年 3 月 10 日)
- [“Brisbane Catholic Education boosts agency and efficiency with Microsoft 365 Copilot”](#) (2025 年 3 月 12 日)
- [“Broward County Public Schools scales Microsoft 365 Copilot in record K-12 deployment”](#) (2026 年 3 月 24 日)
- [“University of Kentucky sparks campus-wide innovation with Microsoft 365 Copilot”](#) (2026 年 3 月 21 日)
- [“Discovery Trust educators reclaim their weekends using Microsoft 365 Copilot”](#) (2025 年 12 月 22 日)
- [“UC San Diego prepares students for AI-driven industry with GitHub Copilot”](#) (2026 年 5 月 13 日)

研究、調査レポート

- [2026 年グローバル オンライン安全調査](#) (マイクロソフト)
- [Empowering Learners for the Age of AI](#) (AILit Framework)
- [“Skills on the Rise in 2025”](#) (Jen Dewar、2025 年 3 月 26 日)
- [“AI and the Global Economy: Unlocking Growth and Reshaping Work](#) (LinkedIn、2025 年 4 月)
- [“AI@Work:Work is changing fast.Education needs to catch up.”](#) (Jared Spataro、2025 年 10 月 30 日)

2026 年ワーク トレンド インデックス年次報告書

[2026 Work Trend Index 年次報告書 : Agents, human agency, and the opportunity for every organization](#) (2026 年 5 月)

ワーク トレンド インデックス調査は、独立系調査会社 Edelman Data x Intelligence によって、2026 年 2 月 18 日から 4 月 7 日までの期間、10 市場において AI を業務で活用する 20,000 人のフルタイム雇用者または自営業の知識労働者を対象に実施されました。この調査は 20 分間で、英語または各市場の現地語に翻訳された言語でオンラインで行われました。各市場で 2,000 人の正社員を対象に調査が行われ、全世界の結果はすべての回答を統合して平均値が算出されました。調査対象のグローバル市場は次のとおりです。オーストラリア、ブラジル、フランス、ドイツ、インド、イタリア、日本、オランダ、英国、米国。

AI に関する米国の州のポリシー

マイクロソフトは、州教育機関のウェブサイトや州教育委員会の覚書など、一般に公開されているすべての州のデータを調査しました。「ガイドンス」として認められるためには、その州において、州教育機関が策定または承認した教育分野における AI に関する公式なガイドンスが必要でした。AI リテラシーの重要性を明確にするためには、州のガイドンスに AI リテラシーの定義が盛り込まれ、すべての生徒や教育者が AI リテラシーを身につける必要があることなど、AI リテラシーが果たす基本的な役割が強調されている必要があります。基準の策定が法律または州教育機関によって開始され、その情報が一般に公開されているものの、基準自体がまだ公表されていない場合、このポリシーは「策定中」とみなされます。州の AI リテラシー基準として認められるためには、その州が、AI の仕組み、社会への影響、AI を責任を持って活用する方法を理解するための基準を定めている必要があります。これらの基準は、9 ～ 12 年生向け、あるいは K-12 向け、義務的なもの、あるいは任意のものがあり、既存の教科の基準に組み込まれる場合もあれば、独立した AI リテラシー基準として策定される場合もあります。AI リテラシーを卒業要件として認定するためには、州の高校卒業単位において、AI リテラシーが必須とされている必要があります。これには AI の仕組み、社会への影響、そして AI を責任を持って活用する方法を理解することが含まれます。AI リテラシーの要件は、既存の科目の卒業要件に組み込むこと、または独立した AI リテラシーの卒業要件として設定することも該当します。AI リテラシーに関する要件の説明は、一般に公開されなければなりません。

[詳細なインサイトはこちら](#)、2026 年版 教育における AI 報告書の拡張調査データ

Microsoft Education を開始しましょう

戦略の策定

- [Microsoft Education AI Toolkit](#)
- [AI Guidance for Schools Toolkit \(TeachAI.org\)](#)
- IDC ホワイトペーパー (マイクロソフト提供)、[「A Blueprint for AI-Ready Campuses: Strategies from the Front Lines of Higher Education」](#) #USUS53344625、2025 年 5 月
- [“AI strategies from the frontlines of higher education”](#)
- [Microsoft Education お客様事例](#)

マイクロソフトの AI ソリューションを試す

- [Overview of AI from Microsoft Education](#)
- [AI ツールの無料トライアルを試す](#)
- [Copilot Chat](#)
- [Microsoft 365 Copilot](#)
- [Microsoft Education](#)

学習用リソース

- [Microsoft Learn 教育のための AI: リソースと学習機会](#)
- [Microsoft 365 Copilot Chat resources for education](#)
- [Minecraft Education AI の基本](#)
- [AI クラスルーム ツールキット](#)
- [ファミリー セーフティ ツールキット](#)

最新のインサイトを掘り下げる

- [Preparing Students for the Future この最初のリンクはまだ公開されていませんのでご注意ください of Work](#)
- [2025 AI in Education: マイクロソフト特別レポート](#)
- [2026 Work Trend Index 年次報告書](#)
- [Research on AI at work from WorkLab](#)
- [The New Future of Work from Microsoft Research](#)

最新ニュースを入手する

- [Microsoft Education Blog](#)
- Microsoft Education を [LinkedIn](#)、[X](#)、[Facebook](#)、[Instagram](#) でフォローしてください
- [教育における AI の web サイト](#)
- [Microsoft 365 Copilot in education](#)